

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

特9

福岡県立太宰府特別支援学校

自己評価					
学校運営計画(4月)				評価(総合)	
学校運営方針	5つの取組の徹底を通して、子供・教職員・学校の成長を目指す！チーム太宰府				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
新型コロナウイルス感染症防止対策として、行事の縮小・変更・中止やICT機器の活用等を行い、各部課等の連携により適切な安全対策を図りながら、教育活動を実施することができた。 今後も安全対策を継続しながら児童生徒の安全を第一とし、更なるICT機器の活用充実とカリキュラム・マネジメントの推進を図る。また、令和3年度作成した人材育成基本計画を基に人材育成を計画的に進め、なおかつ、研修等を通じて組織として特別支援教育に関する専門性向上に努める。	子供一人一人の障がいの状態や特性及び心身の発達段階等に応じた指導の充実	・カリキュラム・マネジメントの確立 ・進路開拓・進路指導・職業教育の充実 ・施設・設備、教材・教具の充実	・ICTの活用による学習活動の充実 ・「鍛ほめ福岡メソッド」の展開		
	安全・安心に学べる教育環境の整備の充実	・人権を尊重した指導の充実 ・児童生徒指導の充実 ・安全対策の充実			
	信頼される指導・支援・取組の充実	・特別支援教育のセンター的機能の充実 ・地域と一体となった学校づくり ・指導・支援・取組に必要な諸条件の整備 ・創立10周年記念事業の実施			
	組織力の発揮・向上・継承の充実	・分掌組織の縦・横のラインを意識した業務遂行 ・諸課題に対する組織的な取組の推進			
	専門性の発揮・向上・継承の充実	・人材育成・専門性向上 ・外部専門家との連携 ・校内支援体制の充実			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
A部門 知的障がい 教育部門	小 児童の障がいの状態や発達段階に応じた指導及び学部内の系統的な指導の充実	児童のニーズに応じたICT活用による主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業実践【一人一実践】	B	・ICT活用による授業実践の継続【一人一実践】 ・タブレットの適切な使い方等、情報活用能力の育成【毎日】 ・授業、単元計画、年間指導計画を関連付けたPDCAサイクルの実践、学部での共有【日々の実践、夏休み・学年末での共有】 ・一般学級の学習をする重複学級在籍児童に対応した教育課程の具体化【1学期中】 ・年間指導計画の見直しのための時間の確保と視点の共有【1学期】 ・学部内の学習会の計画的な実施(年間計画の作成)と内容の検討【1学期中】 ・学年を超えた教師間交流に向けた具体的方策の検討【年度初め】 ・授業づくりのための教師間の情報交換(教材・教具の共有や授業作りの題材、授業展開の情報共有) ・最新の進路情報(福祉事業所の新規や閉鎖)のアップデート	
		年間指導計画→単元計画→実践→評価による系統的な指導【年間指導計画の活用】	A		
		「わかった」「できた」を実感できるような様々な場面での頑張りのフィードバック【適宜】	A		
	中 生徒一人一人の障がいの特性や心身の発達段階に適した指導の充実	単元配列表を活用した教科横断的な視点での年間指導計画の見直し【年2回】	B		
		積極的な生徒指導を実践するための障がい特性等に関する学習会の設定【月1回】	B		
		系統性のある学びの実践に向けた学年や学部を超えた教師間交流の実施【学期1回】	B		
高 卒業後の希望進路の実現と自立と社会参加を目標に、生徒一人一人が社会を主体的に生き抜く力の育成	生徒の実態に応じた授業づくりに関する実践交流の場の設定【学期1回】	B			
	生徒との関わり方や保護者等への対応及び支援に関する研修・情報交換会の実施【随時】	B			
	進路指導部と各学年の連携による進路情報の共有及び職業教育の充実【随時】	A			
B部門 肢体不自由 教育部門	小 児童一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実	系統性及び教科横断的な視点による年間指導計画の見直し【音楽、生活単元学習における合わせた教科の学習内容等】	A		
		小集団における自立活動の指導(見合い、教え合い)の実施【月2回以上】	B		
		実態に応じたICTの活用を通じた学習活動の充実【学期に2回】	A		
	中 生徒一人一人の障がいの特性や心身の発達段階に応じた安全・安心な教育環境の充実	学部に於ける「緊急時対応マニュアル」の確認とシミュレーションの実施【学期1回以上】	A		
		実践的な研修や療育機関での訓練見学の実施による自立活動の指導の実施【学期1回以上】	A		
		行事等における安全・安心に配慮した計画の立案と学部全体での共有による指導の実施【随時】	B		
高 卒業後の進路を見据え、個々の生徒の実態に基づいた指導計画の作成と社会を生き抜く力の定着	生徒の実態把握をもとにしたICTを効果的に活用した授業の実践【一人一実践】	A			
	キャリアパスポートを活用して実習等の成果を生徒が互いに発表し合う機会の設定【学期1回】	A			
	自立活動における校外の実践(研修・訓練見学等)の職員間共有の徹底【学期1回以上】	B			
教務課	障がいの状態や特性等に応じた指導・支援の充実	単元計画の様式の改善と効果的な活用方法の検討【随時】	B	・実施授業の評価、改善、年間指導計画の見直し【毎年】 ・自立活動の指導力向上(見合い、学び合い) ・ICTの効果的な活用を学部で共有【学期末】 ・外部専門家の活用と助言内容の共有/継承 ・「緊急時対応マニュアル」の確認とシミュレーションの継続的な実施 ・生徒一人一人の自立活動の内容について学部での共有 ・各行事を安全に実施するための綿密な計画・立案 ・進路指導の専門性の向上のため夏季休業中を利用して職員向けの施設見学会を実施予定 ・自立活動の指導力向上のため自立活動係や校内支援コーディネーターとの継続的連携及び学部内共有や勉強会の定期的実施	
		合わせた指導に含まれる各教科の目標と内容の明確化【随時】	A		
		個別の指導計画における観点別評価の検討【学期毎】	A		
	教育環境整備の充実	教材教具の希望調査、及び教材教具の適正な管理【学期毎】	A		
		12年間を見通した指導計画の立案による行事の精選【年2回】	B		
		統合型校務支援システムの円滑な運用【随時】	A		
	庶務課	PTA活動の円滑な運営	PTA役員と担当職員との密な連携と協働【随時】		A
			PTA役員会記録の学校ポータルへの掲載【会議毎】		B
			専門部部長との連携による、専門部の活動の実施【随時】		A
		広報活動の充実	学校ホームページリニューアル【12月まで】		B
			分かりやすい学校要覧の作成【年1回】、及び学校新聞の発行【年2回】		A
			ボランティア養成講座の開催と計画的な活用【年3回】		A
情報管理課	校務用PC、各種ネットワーク、ファイルサーバの適切な管理	効率的な校務用PCの故障・不具合対応の実施【随時】	A		
		効率的な各種ネットワークの不具合対応の実施【随時】	A		
		FSの使用状況の把握と毎学期末の整理の呼び掛け【学期毎】	B		
	各種ICT機器の適切な管理・利用の促進	学校タブレットPCや周辺機器に応じた点検・環境整備【随時】	A		
		PC室の環境整備の推進と毎学期末の返却チェック実施【学期毎】	B		
		新しい貸出機器・機能等のポータル等での紹介【随時】	B		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である
	B : 概ね適切である
	C : やや適切である
	D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	【全体に対する意見等】 ・各部で運営方針の5つの取組について具体的な数値目標、到達目標を挙げて実施され、客観的に評価が行われている。それに基づき、次年度の課題も更なる数値目標も挙げられ明確化されている。 ・校内は勿論、地域、関係機関等との様々な連携により教育の充実が図られ、ICTを効果的に活用されている。 ・学校は適切に運営されており、評価も概ね良好である。課題意識もあり、改善にも努められている。 ・この3年間で教育環境が著しく変化し、校長はじめ教職員が計画、実施するに当たっては大変な苦勞があったと思うが、これからのもしっかり努力してほしい。 ・校長の指導の下に統制がとれた学校評価である。 ・学校は、いろいろな目標や時代に沿って方法を変えながら運営されていると初めて知った。各部門ごとの大きな目標からの細かい目標設定の下、教育活動が展開されている。また、ホームページを見ると、学校評価の資料が載っていて知らないことが多く、学校の先生たちの大変さを実感し、改めて感謝の気持ちを抱いた。 ・感染対策を行いながら行事を実施できたのは、保護者、生徒にとっても大変うれしいことと思う。 ・児童生徒増の中、教職員の苦勞は想像以上と考える。 ・児童生徒の生き生きとした活動の様子が窺え、活気を感じる。
A	【部門】 ・AB部門ともに個に合わせた活動が目標になっていて、さすが特別支援学校である。 ・昔遊びが3年ぶりに開催され、児童の喜びがこちらにも伝わり、こちらも楽しんだ。
A	【教務部】 ・ホームページの活用がもう少しなされると、様々な方にとって優しい学校になれるはずである。 ・1人1台端末がICT教育の効果的な作用になるはずである。

進路指導部	進路指導課	段階的、計画的な進路希望の集約による進路指導態勢の充実	系統性のある進路指導・職業教育の実施【随時】	A	A	A	・新型コロナウイルス感染症に対応した進路先開拓、支援機関との連携、計画的な説明会の実施 ・職員の共通理解に基づく丁寧な対応による資料提供 ・進路決定を見通した実習の実施及び実習評価、キャリアシートの有効活用 ・卒業生支援に関わる体制整備、連携	A	【進路指導部】 ・コロナ禍もあり、進路先の開拓、実習等については、苦勞されていると思うが、内定者も多く、教職員が一丸となって取り組んでいる。 ・令和3年度からの継続の就職先が見受けられ、卒業生の就職先での活躍や就職先から学校への信頼の厚さを感じる。また一方で、新たな就職先もあり、進路指導も充実している。 ・全員内定が決まったと聞いて苦勞の大きさが窺えるが、卒業後のケアも頑張っている。		
		説明会、研修会、進路相談等の充実による進路選択への理解促進	全職員の共通理解のもと生徒の実習先や進路先の開拓【随時】	B							
			進路掲示板や資料のファイリングでの情報発信【随時】	A							
			進路相談記録のキャリアシートとしての活用【随時】	B							
児童生徒指導部	児童生徒指導課	事故の未然防止と速やかな緊急対応及び教室環境等の整備と安全教育の充実	危機管理マニュアルの内容周知と実践的なシミュレーションの実施【随時】	B	B	B	・危機管理マニュアルの内容充実のための、見直し及び職員間での内容に関する共通理解【年2回】 ・学校と地域が連携した災害避難訓練の実施【年1回】 ・効果的な安全教育を実施するための更なる外部機関との連携、児童生徒の発達段階及び時期を考慮した実施【随時】 ・いじめにおける報告方法の改善及び職員への周知徹底【学期に1回以上】 ・SC等と連携した不登校及び不登校傾向の児童生徒への迅速かつ継続的な支援の実施【随時】 ・ICTを活用したアンケートの内容見直し【年2回】 ・紙面によるアンケート実施からICTを活用したアンケート実施への完全移行のための周知徹底【学期に1回以上】	B	【児童生徒指導部】 ・児童生徒指導課：緊急時対応、特に自然災害に対して実践的なシミュレーションの実施とあるが、継続的な実施を望む。また、地元として何らかの協力をしたい。 ・防災の取組がようやく始まり、今後に期待する。 ・小中学部の文化祭を参観し、ステージ発表での一生懸命な姿や展示販売における日頃の教育活動の成果を拝見し感動した。		
		児童生徒指導における組織的対応と職員間の情報共有の徹底及び関係機関との連携	いじめの報告及び対応方法の周知徹底【学期に1回以上】	A							
			SCやSSWを有効活用したいじめや不登校等の生徒指導上の諸課題への対応【随時】	B							
			ICTを活用したアンケート結果の分析及び課題改善に向けた職員間での情報の共有【年3回】	B							
		児童生徒会活動の活性化による主体的な態度の育成	SCと連携した職員研修の実施及び地域支援の促進【職員研修：年2回、地域支援：随時】	A							
	交通管理課	関係者との連携と安全な環境整備	児童生徒会組織を生かした各行事や活動等の計画の立案と実施【月1回以上】	A	A	A	児童生徒が主体的に活動に取り組むためのICTや放送機器等の活用【随時】	A	【児童生徒指導部】 ・児童生徒指導課：緊急時対応、特に自然災害に対して実践的なシミュレーションの実施とあるが、継続的な実施を望む。また、地元として何らかの協力をしたい。 ・防災の取組がようやく始まり、今後に期待する。 ・小中学部の文化祭を参観し、ステージ発表での一生懸命な姿や展示販売における日頃の教育活動の成果を拝見し感動した。		
		児童生徒の通学方法の適切な管理による安全な通学保障	児童生徒が主体的に活動に取り組むためのICTや放送機器等の活用【随時】	A							
		本校を利用する車両等の効果的な交通整理	バスコース担当、担任、運転手・添乗員での車内状況等の共通確認【随時】	B							
			保護者や職員からのバスに関する問い合わせ等に対する適切かつ丁寧な対応【随時】	B							
	保健課	保健課	感染症予防と健康保持増進及び身体を大切にす態度の育成	関係者と連携して行う自力通学・単独通学生徒の通学路の安全確認の実施【随時】	B	B	B	・週2回の通学バス車内の状況確認と添乗員との情報共有の実施 ・自力通学・単独通学中における緊急時のより確実な対応方法の周知 ・学校ポータルサイトでの週1回の職員車両移動予定の提示	B	【児童生徒指導部】 ・児童生徒指導課：緊急時対応、特に自然災害に対して実践的なシミュレーションの実施とあるが、継続的な実施を望む。また、地元として何らかの協力をしたい。 ・防災の取組がようやく始まり、今後に期待する。 ・小中学部の文化祭を参観し、ステージ発表での一生懸命な姿や展示販売における日頃の教育活動の成果を拝見し感動した。	
			児童生徒が安全で快適に過ごすための校舎内外の環境整備	本校を利用する車両が安全に使用することができる駐車場管理の実施【随時】	A						
			学校給食を通じた食事に関する基本的習慣の確立と食に関する指導の推進	行事予定等に基づく駐車場の年間管理と環境整備【随時】	B						
			医療的ケアを安全に実施するための環境整備	児童生徒の健康状態の把握と保健指導の情報提供【月1回】	A						
		研修・支援部	支援課	児童生徒への支援充実及び職員全体の専門性の向上	三密(密閉・密接・密集)を回避する対策【随時】	B	A	A	・ヒヤリハット事故報告についての周知徹底 ・小中高の系統性ある性に関する指導の実践 ・CO2濃度計の取扱い(保証期間終了) ・校舎増設に伴う清掃場所の確認 ・給食指導表の活用促進 ・食物アレルギーについては、調理実習前や校外学習前などで確認会を実施 ・医療的ケア体制整備事業外の児童生徒の把握の仕方	A	【研修・支援部】 ・外部専門家活用事業について、昨年度は中止や変更が相次いだのが、今年度は計画どおり実施できた。しかし、児童生徒数の増加から5名の専門家の指導を受けるに当たり、対象児童生徒を決定するまでの方法や指導助言の十分な時間の確保、全職員への助言内容等の共有などが不十分な点であり課題が残った。 ・人材育成基本計画について、一人一人の職員をポイントで記入すると、どの年齢群が課題になるか見えてくる。
				地域支援の充実と担当職員及び関係機関との連携方法の整備	保健研修会の計画・実施【年3回】	A					
					職員清掃【週1】・毎日消毒の徹底【毎日】	A					
				清掃用具の管理の徹底【随時】	B						
事務部	事務部	安全・安心に活動できる施設・設備の整備	教室環境の整備の徹底【随時】	B	A	A	・校内のニーズの把握と学部主事および人材バンクと協働した支援体制づくり【随時】 ・太宰府市および筑紫野市における保・幼・小・中夏季相談会の実施【年1回】 ・相談支援事業所(サービス担当会議担当)への手続きの周知【年度当初】	A	【研修・支援部】 ・外部専門家活用事業について、昨年度は中止や変更が相次いだのが、今年度は計画どおり実施できた。しかし、児童生徒数の増加から5名の専門家の指導を受けるに当たり、対象児童生徒を決定するまでの方法や指導助言の十分な時間の確保、全職員への助言内容等の共有などが不十分な点であり課題が残った。 ・人材育成基本計画について、一人一人の職員をポイントで記入すると、どの年齢群が課題になるか見えてくる。		
		学習活動に必要な教材・教具の充実	衛生的な給食準備の周知徹底【随時】	B							
			職員間での共通理解を図った上での安全な給食指導の実施【随時】	B							
			摂食指導について理解を深めるための外部専門家の活用【年6回】	A							
事務部	事務部	安全・安心に活動できる施設・設備の整備	医療的ケア校内委員会の定期的な開催【月1回】	A	A	A	・年間予算執行計画を立てることによる施設設備の確実な整備 ・確実な管理による物品等の充実	A	【研修・支援部】 ・外部専門家活用事業について、昨年度は中止や変更が相次いだのが、今年度は計画どおり実施できた。しかし、児童生徒数の増加から5名の専門家の指導を受けるに当たり、対象児童生徒を決定するまでの方法や指導助言の十分な時間の確保、全職員への助言内容等の共有などが不十分な点であり課題が残った。 ・人材育成基本計画について、一人一人の職員をポイントで記入すると、どの年齢群が課題になるか見えてくる。		
		学習活動に必要な教材・教具の充実	主治医面談の実施【年度当初各1回】と指導医訪問の実施【学期1回】	A							
			医療的ケアの実態を共有するための校内研修の実施【年2回以上】	A							
			チーム、副チーム制の導入による業務の継承と円滑化【年間】	B							
事務部	事務部	安全・安心に活動できる施設・設備の整備	自立活動係と支援課の連携体制構築による校内支援【随時】	B	B	B	・チーム、副チーム制の効果的運用による業務の継承と円滑化 ・業務への組織的取組のための報告、連絡、相談の徹底 ・自立活動の指導に関する校内体制の整理による支援の充実 ・学校全体による重点課題研究最終報告会の円滑な実施	B	【研修・支援部】 ・外部専門家活用事業について、昨年度は中止や変更が相次いだのが、今年度は計画どおり実施できた。しかし、児童生徒数の増加から5名の専門家の指導を受けるに当たり、対象児童生徒を決定するまでの方法や指導助言の十分な時間の確保、全職員への助言内容等の共有などが不十分な点であり課題が残った。 ・人材育成基本計画について、一人一人の職員をポイントで記入すると、どの年齢群が課題になるか見えてくる。		
		学習活動に必要な教材・教具の充実	校内支援コーディネーターの複数配置による情報の共有と協働体制の整備【随時】	A							
			具体的支援方法明確化を目指した実態把握や校内人材バンクの活用及び自立活動係との連携【随時】	B							
			各学部の実態に応じた学習会の実施【学期1回】	A							

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策(2月1日現在での案)

○学習指導要領に基づいた授業の充実・改善及び観点別評価等を踏まえた年間指導計画/単元計画の作成並びに学部内・学年内での情報共有
○児童生徒一人一台端末の管理運用体制づくり及びICTを活用した授業改善並びに重点課題研究の推進
○児童生徒の安全確保のための危機管理マニュアルの見直し及びバス通学や医療的ケアにおける安全確保並びにスクールカウンセラーの有効活用
○教職員の障がい種別に関する専門性の向上及び各部・分掌内での業務の継承と人材育成
○各課の具体的方策において実施後客観的に評価するための数値目標・到達目標等の具体的設定

評価項目以外のものに関する意見
<p>【ランドデザイン】</p> <p>・学校教育目標の実現のために、子供、学校、教職員それぞれが成長するための重点目標や具体的方策が明確に現されている。「光り輝く存在として社会を生き抜く力を育成する」に向けて教育活動の全体像が理解できる。</p> <p>ランドデザインは分かりやすく体系化されており、構想図に整理されている。</p> <p>・センター的機能の充実：市内の小中学校では、特別支援学級が増加してきており、相談会等を実施して情報共有等を行っているが、本校にできるだけ対応をお願いしたい。</p>
<p>【保護者との連携】</p> <p>・PTA/保護者との連携をもっと丁寧に、なおかつ、適切な頻度で行ってほしい。</p> <p>・新設校の通学区域について、早い段階の説明を県に要望してほしい。</p>